

未来へ、まっすぐに。

CSRレポート 2006



contents

- 01 編集方針
- 02 企業理念 企業行動規範

トップコミットメント

- 03 CSR（企業の社会的責任）の取り組みについて
- 04 CSRで目指すもの

マネジメント体制

- 05 CSR推進体制
- 06 コーポレートガバナンス
- 07 コンプライアンス
- 08 リスクマネジメント

経済の中で

- 09 会社概要・業績
- 11 株主・投資家への取り組み
- 12 FPD産業への貢献

社会のために

- 13 顧客満足度向上への取り組み
- 14 品質管理への取り組み
- 14 安全性への取り組み
- 15 保安・防災への取り組み
- 16 従業員とのかかわり
- 17 社内コミュニケーション
- 18 地域社会とともに

環境を守るために

- 19 環境マネジメント
- 21 環境を守るために
- 22 環境配慮製品の開発
- 23 その他の環境対策
- 24 環境データ
- 25 KIMOTOの歩み
- 26 発刊にあたって



編集方針

この「CSRレポート」は、KIMOTOの2005年度（2005年4月～2006年3月）の社会的貢献活動についてまとめた初めての報告書です。この報告書を作成するにあたっては、「環境報告書ガイドライン2003年版」（環境省）、および「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」（GRI）を参考にいたしました。本報告書は、KIMOTOのステークホルダーの皆様、すなわちお客様、株主・投資家の皆様、地域住民の皆様、お取引先様、ならびに従業員各位にお読みいただきたいと思います。



企業理念

「KIMOTO」は、
世界に通ずる技術開発型の企業として、
その時代、時代に成し得る最高の専門技術と、
最高の製品・商品ならびにサービスを
内外の顧客に提供し、企業の発展を通じて、
顧客・株主ならびに従業員の満足を得ることを
旨としています。

また、よき企業市民として、
地域の発展と繁栄に寄与し、環境の保全に努め、
未来に向けて社会と共に
前進する企業であることを
目指しています。



2004年5月に改訂した「株式会社きもと 企業行動規範」を、より一層理解しやすくするため、このほど漫画版冊子として作成し役員および従業員に配布を行いました。

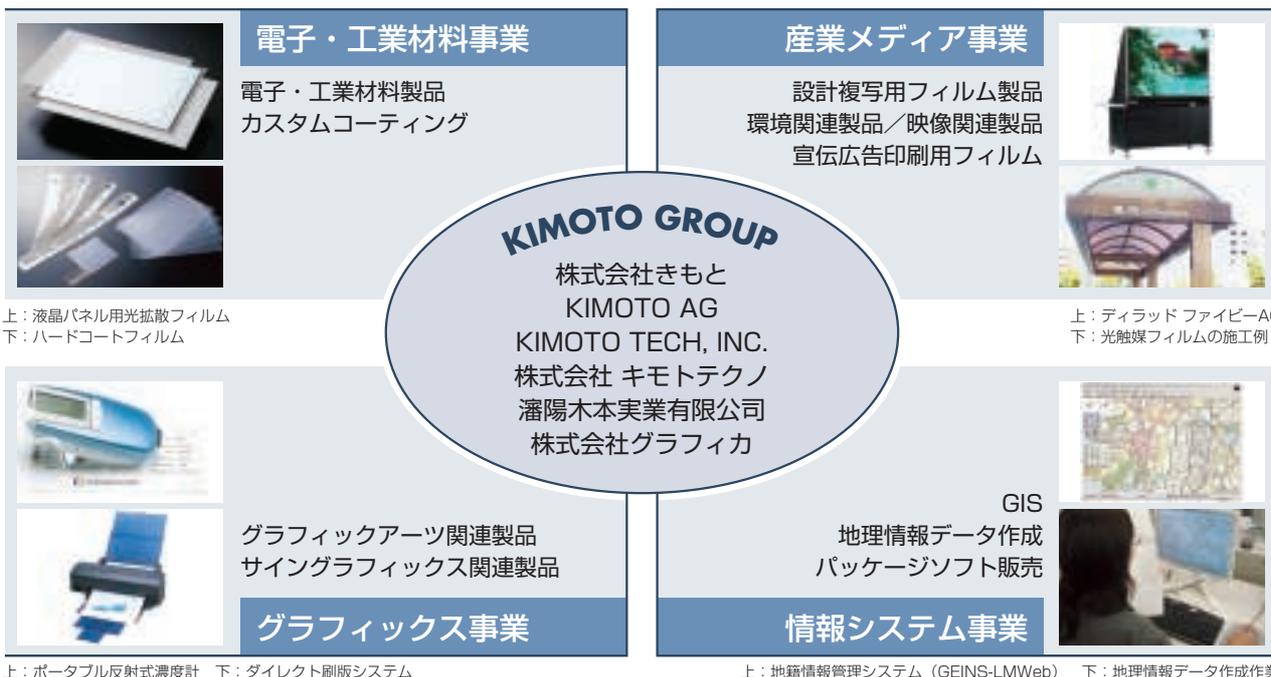
また、新入社員研修の際にもこの冊子を使用した研修を行っています。

企業行動規範

1. 法令やルールの遵守と企業倫理
2. 顧客の信頼獲得
3. 取引先との信頼関係
4. 株主・債権者の理解と支持
5. 社員・従業員の連帯と自己発現への環境づくり
6. 社会とのコミュニケーション
7. 情報の適正な管理
8. 政治・宗教との関係
9. 反社会的勢力および団体への対処
10. 地域社会との共生

トップコミットメント

企業の社会的責任と
その果たし方について
しっかりと考えていきたい
と思います。



CSR (企業の社会的責任) の取り組みについて

企業が円滑に事業活動を続けていくためには、社会と共生していくことが極めて重要であり、社会との関わりの中で企業はさまざまな責任を果たしていかなければなりません。

また、企業が持続的に成長するためには、顧客、株主、取引先、従業員、地域などのステークホルダーから信頼を得ることが不可欠であり、信頼を得るためにはコンプライアンスに基づいた誠実な経営が求められています。

KIMOTOではコンプライアンス経営を推進するために、2004年5月に「企業行動規範」を改訂し、企業市民としての責任を役員および従業員に周知徹底しています。

さらに生産工場においては、従来から地域に根ざした企業を志向して地域への貢献を心がけていますが、より広くCSR(企業の社会的責任)を推進するために2005年4月にCSR委員会を設置いたしました。

企業の社会的責任とは何か、何をすれば社会的責任を果たすことができるかを多くの従業員が共有できるように、委員会メンバーは広く社内から募り、通常業務を遂行しながら活動しています。

現在、役員を部会長として「コンプライアンス部会」「環境・安全部会」「品質・PL部会」の三部会に分かれ、抽出された課題の対応策について議論を重ねています。

このたび、この委員会活動の状況を報告書にまとめた「CSRレポート」を発刊することになりました。

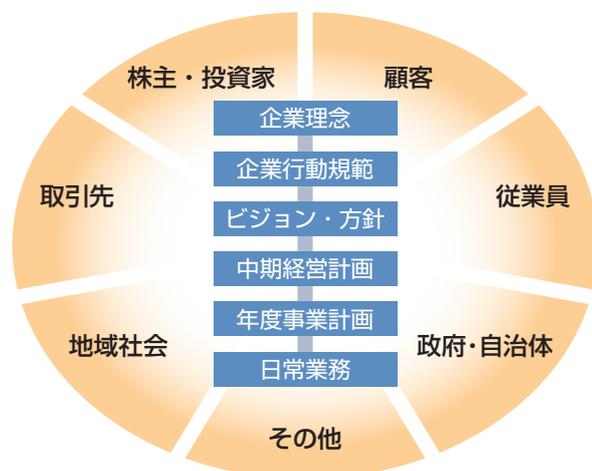
KIMOTOのCSR活動はまだ緒に付いたばかりですが、私たちのこの一年間の取り組みをご覧いただき、ご助言ならびに率直なご意見を賜れば幸いと存じます。

代表取締役社長 丸山 良克

CSRで目指すもの

KIMOTOはステークホルダーの皆様とのより良い関係を築くことを最も重要な活動と考えています。そのため、従来は社内の各部署でそれぞれ行っていたコミュニケーション活動を全社一体によるCSR活動に集約することといたしました。

KIMOTOにとりましては企業理念を実現することがCSR活動の目標であり、それがKIMOTOのステークホルダーの皆様のご幸せにも通じるものと考えています。



マネジメント体制

誠実で高邁な理想を求める企業でありたい。
私たちはいつもそう考えています。

CSR推進体制

CSR委員会の設置

企業に求められている社会的責任がますます広範にわたり、全社・全組織での対応がいま最も必要とされています。KIMOTOではこの要請に対応するため、2005年に「CSR委員会」を発足させ、活動を開始いたしました。

同委員会には「コンプライアンス部会」「環境・安全部会」「品質・PL部会」の三部会が設置され、各組織への方向付けと活動推進に注力しています。



CSR基本方針

CSR活動を積極的かつ継続的に推進していくために、「株式会社きもと CSR基本方針」を定め活動を行っています。

今後は、グループ全体への展開も積極的に進めていきたいと考えています。

株式会社きもと CSR基本方針

株式会社きもとは、事業活動に伴い生み出される経済的価値のみに着目することなく、自発的に社会的価値と責任を重視し社会の持続的な発展に貢献する経営を行うために、以下の方針を定める。

- ・事業活動にかかわる法律を遵守し、善良な企業あるいは企業人としての姿を追求する。
- ・環境保全活動に注力し、可能な限り環境負荷を低減する事業活動を展開する。
- ・顧客重視の事業活動を行う事で、顧客との相互発展を通じて社会貢献を目指す。

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスの考え方

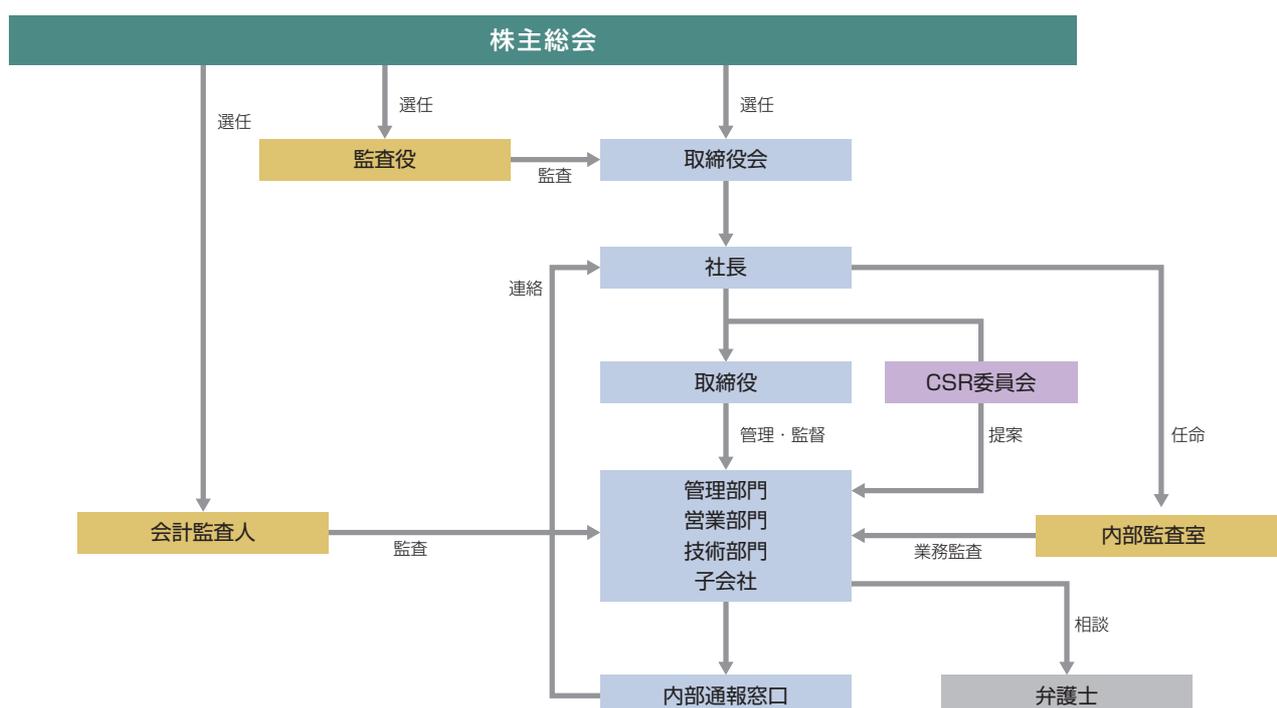
KIMOTOグループは、「企業は、経営の効率化を図ると同時にステークホルダーに対する説明責任を果たすことで、株主の利益を最大化することを目標とする」との基本認識とコンプライアンスの重要性をコーポレートガバナンスの

基本的な考え方としています。

株主の権利を重視するとともに社会的信頼に応えるため、より強固な体制で以下の取り組みを行ってまいります。

- a. 内部監査の強化
- b. 監査体制の強化
- c. 行動指針の制定とコンプライアンスの徹底
- d. 株主重視の経営指標の設定
- e. 説明責任の徹底
- f. リスクマネジメントの強化

コーポレートガバナンス体系図



コンプライアンス

法令遵守の取り組み

2005年4月、KIMOTOではCSR委員会内にコンプライアンス部会を設置し、法令の遵守はもちろんのこと、企業倫理や社内ルールの徹底に取り組んできました。

●交通ルール

交通ルールに対する意識向上のため、社内で標語の募集、ポスター、ストラップ等を作製し、従業員への注意を促すとともにルールの徹底を図りました。

また、外部の講師による社内講習会を全国の支店・工場で開催しました。

本年度は基本となる交通ルールおよび独占禁止法について、コンプライアンス部会が全社的な取り組みを行い、従業員の一層の意識、知識の向上を図りました。



●独占禁止法

独占禁止法に対する従業員の知識の向上を目的として『独占禁止法ガイドライン』の小冊子を作成いたしました。このガイドラインは、特に販売行為において注意しなければならない事項を、漫画等を取り入れ要点を簡潔に説明しております。

今後は従業員への配布と併せて、各部署で説明会を開催し啓蒙活動を行っていきます。



公益通報者保護法への対応

●企業倫理ヘルプライン窓口を開設

多くの企業で不祥事が多発して企業倫理が問われる中、KIMOTOは「企業倫理ヘルプライン」を導入いたしました。

「企業倫理ヘルプライン」は、法令、株式会社きもと企業行動規範、社内規程に違反または違反するおそれのある行為に関して、従業員の一人ひとりが相談・申告できる制度です。

相談・申告は社内複数部署と社外法律事務所に設置されている「企業倫理ヘルプライン窓口」に対して行うことができ、相談・申告により個人が不利益を受けることはありません。

また、「株式会社きもと」だけでなく、国内グループ会社にも対象を広げています。

KIMOTOでは、「企業倫理ヘルプライン」を企業体質改善のための手段と考え、一人ひとりにその利用を奨励しています。



「企業倫理ヘルプライン」説明会

リスクマネジメント

KIMOTOのリスクと対応

リスク管理については、従来から各部署がそれぞれリスク管理をしてきましたが、CSR活動を契機に全社的なリスクの洗い出しとリスク評価の見直しを行いました。

まず、各部署で現状想定できるリスクをピックアップし、それを総務部に集積、さらに想定されるリスクを追加して、発生頻度、損害規模を縦横軸とするリスクマップ・マトリックスを利用して重要リスクの優先順位付けを行いました。

洗い出されたリスクには、事故災害から社会、経営に関するリスクまで、多種多様な事象がリストアップされています。この中から、より現実的リスクという観点をもとに

優先的に対応する必要があるリスクを抽出しました。

具体的には「事故災害からのコンピュータシステムの保全方策」「風評の流布への対応」を優先的に対応すべきリスクとし、マニュアルの作成をスタートしました。

今後は、リスクに対する従業員一人ひとりの意識を高めると同時に、新会社法で規定されている内部統制システムの一環として、KIMOTOグループのリスク管理体制の構築に努めていきます。

情報セキュリティ

KIMOTO の情報セキュリティへの取り組みは、これまでも各部署単位で行われていましたが、今回のCSR委員会発足を機に、全社的な取り組みといたしました。

そこで、各部署で取り扱う文書情報（主に紙媒体）について、統一した評価基準を設けてリスク分析を行い、そのリスクに対し評価基準に応じた管理方法を定め、文書情報セキュリティの確立を目指しました。

また、データ情報に対するセキュリティについては、業

務での私有パソコンの使用禁止と社有パソコンの使用ガイドラインを制定することで情報漏洩などに対するセキュリティの向上を図りました。

重要な顧客データを扱う情報システム事業部門においては、2005年5月に「ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）認証基準（Ver.2.0）BS7799：PART2：2002」を取得いたしました。



ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）認証登録証

経済の中で

経済や産業を活性化できる企業でありたい。
私たちはいつもそう心がけています。

会社概要・業績

事業活動概要

機能性フィルム 事業部門

●電子・工業材料事業

液晶バックライト関連材料および高機能コーティング技術は、多くの電子・工業メーカーから高い評価を受けています。今後ますます多様化するニーズに対応するために「クリーン」をテーマとして、高付加価値製品の開発を進めています。

●グラフィックス事業

本事業では「イメージどおりの色を再現する」ことに注力しています。特にカラーマネジメントのノウハウの提供をはじめ、測色器、印刷用色校正ソフト、大型インクジェットプリンター用各種出力メディアおよび表面保護フィルム、さらには環境にやさしいケミカルフリーのGTPシステム、関連機器等の販売を行っています。

●産業メディア事業

機能性フィルム製造のノウハウを活かし、設計・製図分野向けに出力メディアの開発・販売やユーザーニーズに適合したシステムのコーディネートを行っています。また、環境対応型の新製品等による事業領域の拡大も積極的に推進しています。

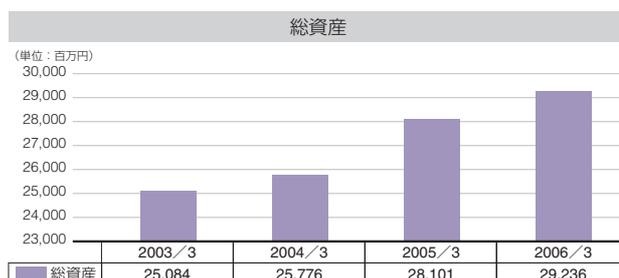
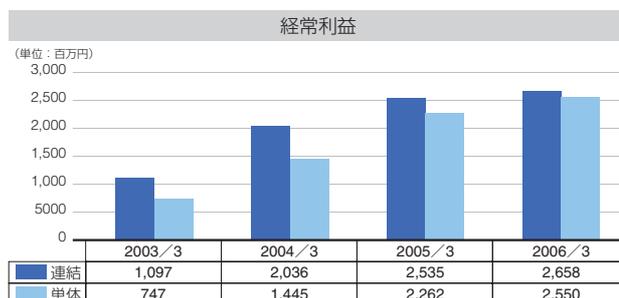
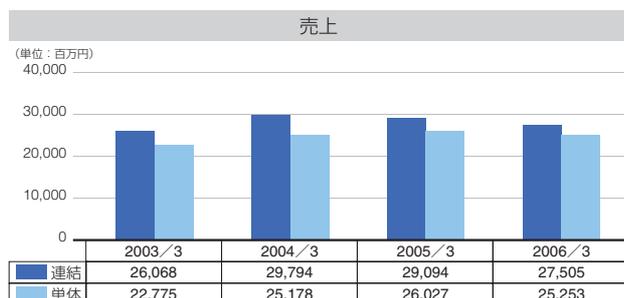
情報システム 事業部門

本事業部門では地図情報を扱い、主に官公庁・自治体にGISデータの入力からWebを利用したシステム開発まで、トータルソリューションを提供しています。また、eAI技術部では、2005年5月に情報セキュリティマネジメントの認証を取得し、お客様に安心していただけるデータ管理体制を構築しています。

会社概要

名称	株式会社 きもと
所在地	160-0022 東京都新宿区新宿2丁目19番1号
設立	昭和27年7月2日
資本金	32億7,400万円
従業員	611名（平成18年3月末日現在）
営業拠点	本店／東京都新宿区 支店／札幌市 仙台市 さいたま市 名古屋市 大阪市 広島市 福岡市 営業所／つくば市 那覇市 海外事務所／上海（中国） 台北（台湾）
工場	三重県／いなべ市 茨城県／古河市
技術開発センター	埼玉県／さいたま市
国内子会社	株式会社 キモトテクノ（東京都） 株式会社 グラフィカ（沖縄県）
海外子会社	KIMOTO AG（スイス） KIMOTO TECH,INC.（米国） 瀋陽木本実業有限公司（中国）

売上、経常利益、純利益、総資産



株主・投資家への取り組み

コミュニケーションのとり方

●株主懇談会

2005年6月29日の第45回定時株主総会終了後、KIMOTOは株式公開後初めての株主懇談会を開催いたしました。

この中で第46期営業戦略などを、KIMOTOの新製品

ディラッドファイバー（リア型プレゼンテーションユニット）を用いて説明したところ、多数のご質問やご意見をいただき、大変有意義な時間を持つことができました。

●IR情報開示

KIMOTOは東京証券取引所などに開示した情報をホームページ（<http://www.kimoto.co.jp/>）においても同時に公開しています。

また年2回の決算説明会を、決算発表後1週間以内に開催しており、毎回多数の投資家や取引先の皆様が出席され、活発な質疑応答がなされています。

さらに、機関投資家からの訪問要請につきましては、KIMOTOのIR担当者がお伺いし、KIMOTOをご理解いただくための意見交換を行っています。



決算説明会

上場記念配当について

KIMOTOの2006年3月期の配当は、期末普通配当8円に東証一部上場記念配当4円を加算し、1株あたり12円を第46回定時株主総会に付議いたします。

その結果、年間配当は1株あたり20円になる予定です。

FPD産業への貢献

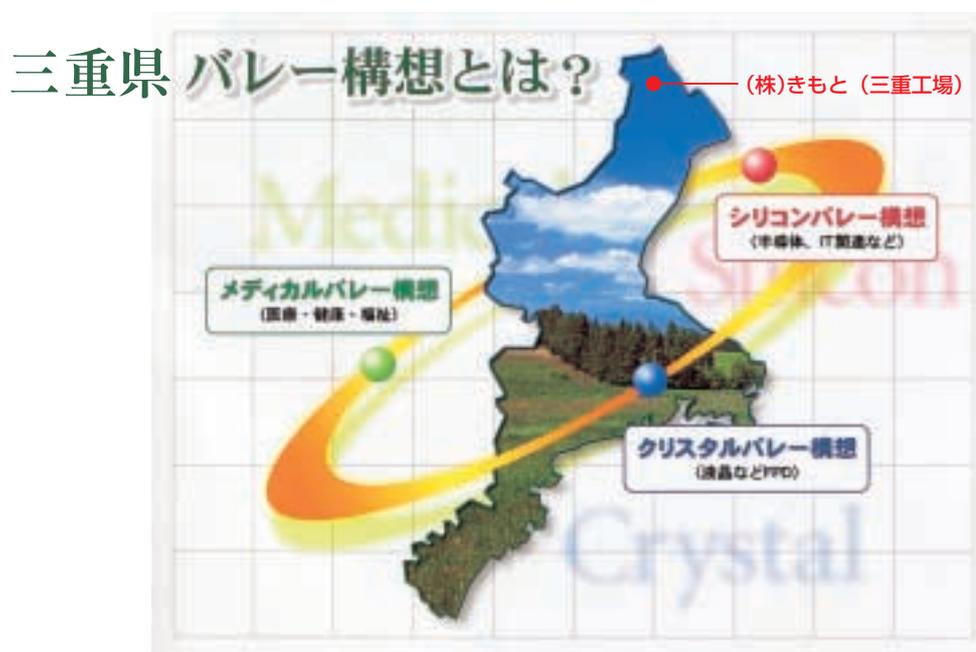
クリスタルバレー構想への参加

KIMOTOは、液晶などのフラットパネル・ディスプレイ（FPD）に使用される部材を製造・供給しています。

三重県はこうした先進のFPD産業の集積化を図るとともに、国際競争に打ち勝てる多様で強靱な産業構造を構築す

る「クリスタルバレー構想」を推進しています。

KIMOTOは主力工場が三重県に所在することから、この取り組みに積極的に参加しています。



社員コメント

電子・ディスプレイ営業部
部長 後藤 政弘

液晶テレビの世界市場は、2005年が前年比2.3倍の2,028万台、2006年の生産見込みが3,566万台と予想されています。

KIMOTOは、液晶のバックライト用部材を生産・販売しています。これからも安定した部材供給を通じて液晶テレビの増産やFPD産業の発展に貢献をしていきたいと考えています。



社会のために

豊かな社会生活に貢献できる企業でありたい。
私たちはいつもそう希求しています。

顧客満足度向上への取り組み

スーパークリーンの製造設備を新設

KIMOTOでは、ISO9001品質マネジメントシステムの中で、「顧客満足度調査業務標準」を定め顧客満足度の向上に取り組んでいます。生産現場においては、品質クレームについて集計・分析を行い、苦情の予防活動へ展開しています。営業においては、顧客要望などの情報を日報として集計し、品質を含む顧客のニーズを的確に把握して新製品の開発および品質の向上に反映させることに努めています。

こうした活動を通じて、製品の異物除去に対する顧客要求レベルが飛躍的に高まりつつあることを捉え、2005年、三重工場に既存製造設備を大幅にグレードアップしたスーパークリーンの製造設備を新設いたしました。

また、CSR委員会の品質・PL部会では「顧客へ提供する情報管理の強化」「PL対策の見直し」などの課題に取り組む、顧客満足度および品質の継続的向上に努めています。



スーパークリーン設備

品質管理への取り組み

品質管理体制

KIMOTOの事業部門は、機能性フィルム事業部門と情報システム事業部門に区分され、それぞれの品質規格としてISO9001を全国的に展開しています。

●機能性フィルム事業部門

機能性フィルム事業部門は1995年に日本規格協会にて審査登録されました。(JSAQ035)

2003年より全国展開を行い、登録範囲を拡大いたしました。

●情報システム事業部門

情報システム事業部門は2001年に日本規格協会にて審査登録されました。(JSAQ1259)

2005年より全国展開を行い、登録範囲を拡大いたしました。



ISO9001登録証・付属証

最初に審査登録されてから10年が経過した現在では、品質マネジメントシステムも根づき、品質保証室を中心に一層の品質向上、コスト削減、顧客満足度向上に努めています。

安全性への取り組み

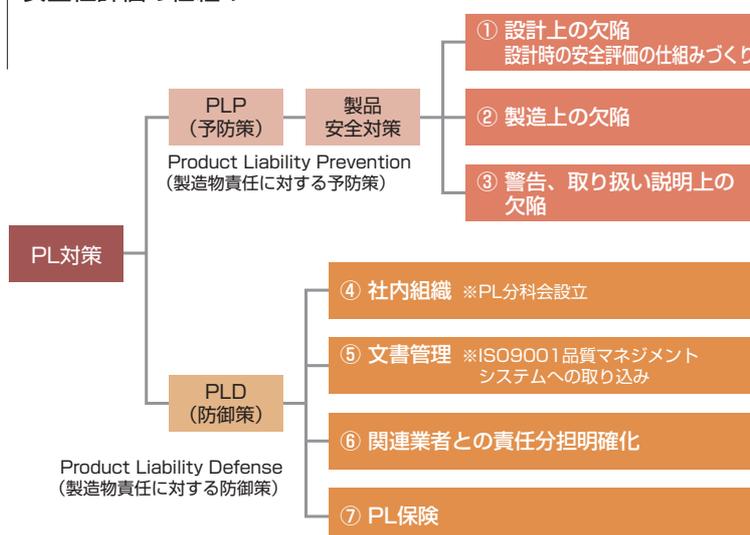
製品の安全性への取り組み

品質・PL部会では、KIMOTOの製品安全対策を見直し、従来の社内組織とPL保険に加えて、より安全な設計で製品開発や製造を行えるよう検討しています。

具体的には、安全性評価を行う新しい仕組みとして新たに「PL分科会」を設立し、製品化前の評価を充実させることで、より安全な製品製造を目指しています。

また、外部講師によるPL法のコンサルティングを受け、さらなる安全性への取り組みを行うとともに、今後は海外への対応も強化していきます。

安全性評価の仕組み



保安・防災への取り組み

安全パトロール

工場では危険物を使用し、また多くの機械設備を利用して生産活動を行っています。

これらによる労働災害を未然に防止するため、KIMOTOでは毎年「安全衛生活動計画」を策定し、労働災害撲滅に取り組んでいます。毎月、安全衛生委員による安全パトロールを実施し、危険箇所、危険作業等の抽出とその是正活動を実施しています。

また、本社および技術開発センターでも労働安全衛生委員会による巡回を毎月実施し、安全衛生に努めています。



危険箇所のチェック

防災訓練

技術開発センター、工場においては防災活動の一環として消防計画を立案し、自衛消防隊を組織しています。

全従業員を対象に毎年防災訓練を実施し、自衛消防組織による消火栓、消火器による初期消火、避難・誘導、通報・連絡、救護活動などの訓練を実施しています。

さらに災害時における危険物の漏洩を想定し、その環境影響を最小限に食い止める訓練も実施しています。

また、本社は賃借ビルであるため、ビルの全テナントを対象とした防災訓練に積極的に参加しています。



消火活動訓練の様子

防災マニュアル

わが国は地震大国であり、世界のM6以上の地震の約2割が日本の国土周辺で発生しているといわれています。さらに近年、大規模な地震が発生する可能性も指摘されていて、防災への取り組みは緊急の課題となっています。

KIMOTOでは、企業の社会的責任を果たすため危機管理としての地震対策にも取り組んでいます。具体的には本社、各支店、工場等を含めた防災マニュアルの作成、整備を進めています。

従業員とのかかわり

労働安全衛生

従業員50名以上の事業所（本社、技術開発センター、茨城工場、三重工場）では、安全衛生委員会が主体となり、安全衛生に関する啓蒙活動や定期的な職場の安全点検、消防避難訓練、健康診断を活用した健康管理などを実施して健康な職場づくりを推進しています。その他の事業所にお

いても2006年より「安全衛生推進者」を中心として労働安全衛生法の遵守と労働災害の防止に努めています。

今後は、メンタルヘルスを含めた健康管理の推進を一段と強化していきます。



働きやすい職場環境

従業員にとって働きやすい職場環境を整えるため、コンプライアンス部会では社内の現状調査を行いました。特に、本年度は女性従業員を対象にヒアリングを実施し、規程改

訂等の提案書を人事部および人事制度委員へ提出し検討を行っています。

次世代育成支援

次世代育成支援の一環として所定外労働の削減、年次有給休暇の取得促進等、子育てを行う労働者を対象とする取

り組みを「株式会社きもと行動計画」として計画立案しました。

人材登用の取り組み

KIMOTOの将来を担う人材を採用するため、全国各地で新卒者を対象とした会社説明会を積極的に開催するとともに、主力事業所においてインターンシップの受け入れを実施しています。

また、教育研修の質的向上および人事制度の最適化により、KIMOTOの安定的な発展に寄与する使命感と活力ある従業員の育成を図っています。



KIMOTOビジネススクール研修風景

地域に根ざした企業であること。それがKIMOTOの希望です。

社内コミュニケーション

味の便り

KIMOTOでは従業員だけではなく、従業員の家族とのコミュニケーションも大切なものと考え、その一環として「味の便り」をお届けしています。

これは一定基準を四半期ごとに設定し、それを達成した時に全国展開しているKIMOTOの事業所から、その地域の名産品をメンバーの顔写真にメッセージを添えて従業員にお届けするものです。その結果、従業員のみならず家族の方々とKIMOTOとの間に、より良いコミュニケーションが形成されています。



社員コメント

- ・支店や工場が全国にあるので、毎回違った地域の名産品が届けられ家族で楽しませてもらっています。
- ・各地に「電話で話をすることはあるけれど…」と、なかなか会うことのできない方がたくさんいるので、「味の便り」と一緒に送られてくる支店や工場のメンバー紹介はいつも楽しみに見えています。

社内報リニューアル

ここ数年、休止されていた社内報が、以前の「こんぱす」という名称から「HOT! KIMOTO」というタイトルに代わり、内容もリニューアルされ2006年1月に復活いたしました。

“安堵感のほっと”と“情熱のHOT”をコンセプトとして、社内のコミュニケーションの充実に努めています。



電子掲示板にて閲覧

地域社会とともに

第1回KIMOTO杯開催

三重県いなべ市にある三重工場では、地域住民とのコミュニケーションの一環として、いなべ市のスポーツ少年団を対象に参加チームを募集し『KIMOTO杯スポーツ少年団軟式野球大会』を2006年2月に開催いたしました。第1回の大会は、参加6チームでの熱戦となりました。今後も定期的に開催していきたいと考えています。



優勝チーム「藤原スポーツ少年団」

インターンシップの受け入れ

昨今、高校生の就職内定率の低下および若者のフリーター化などが社会問題化しています。そこで地域の高等学校が、高校生自身の就業体験の不足による偏った就業観や勤労観を是正させるため、毎年就職希望者に対するインターンシップを計画し、近隣の事業所などに受け入れ要請を行っています。

茨城工場でも毎年、複数の高等学校からインターンシップの受け入れ要請があり、生徒が将来（就職）を考える上で少しでもお役に立てるように工場の全従業員で受け入れ、社会で働く実感を体験していただいています。

さいたま市の技術開発センターでもインターンシップの受け入れを行っています。



工場の生産機見学

環境を守るために



自然環境の保護に寄与できる企業でありたい。
私たちはいつもその努力を続けています。

環境マネジメント

環境保全の考え方

KIMOTOでは、事業活動に伴う地球環境への負荷を最小限にすることが企業の社会的責任と考え、有効な対策を積

極的に実施していきます。また、同時に従業員の環境保全に対する意識向上の教育研修も推進しています。

技術部門環境方針

KIMOTOの技術部門（三重工場、茨城工場、物流センター、技術開発センターおよび株式会社キモテクノ）は、機能性材料の設計・生産・物流、関連システム機器のサー

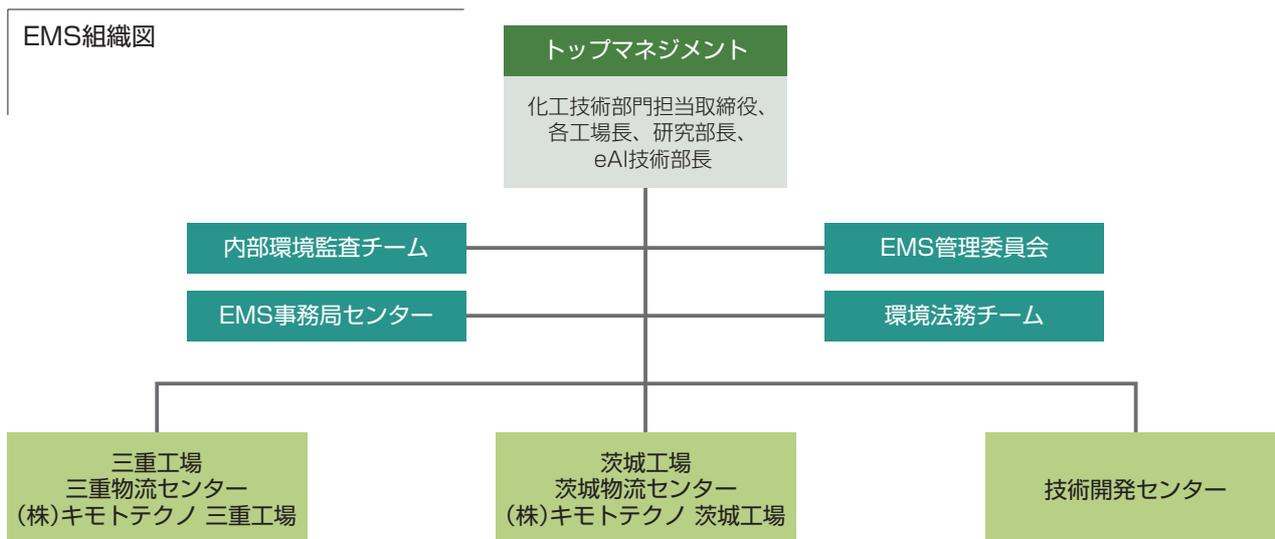
ビスおよび情報システムソフトウェアの開発を通じて、よき企業市民として地域の発展と繁栄に寄与し、環境保全活動を実践するため以下の方針を定めています。

1. 事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を客観的に評価することにより、環境目的、目標を設定し、見直しを含む計画的、継続的な環境改善活動を推進する。
2. 環境側面に適用される法規制及び利害関係者との契約事項を遵守するとともに、自主的な管理基準を積極的に設定し、継続的な環境改善及び汚染の予防に取り組む。
3. 事業活動の全ての領域で、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクル活動を推進し、環境にやさしい製品の開発に取り組む。
4. 環境マネジメントシステムを標準化するとともに、自主的な内部環境監査により継続的にシステムを改善し、全員参加の環境改善活動を推進する。

ISO認証取得

KIMOTOでは、2001年環境マネジメントシステム ISO 14001:1996 JSAE938 を三重工場にて認証取得しています。さらに2002年には、茨城工場、物流センタ

ー（茨城、三重）、技術開発センター（研究部、eAI技術部）が拡大認証を取得、環境方針を定めて環境改善に取り組んでいます。



ISOの啓蒙活動

ISO14001認証取得事業所では、環境マネジメントシステム規格にのっとり、すべての従業員を対象とした教育プログラムをつくり、教育・訓練を実施しています。

教育・訓練は一般教育と特別教育とに分け、一般教育については、環境問題の重要性、各事業所の著しい環境影響、環境方針やEMSに従って活動を行うことの重要性といった従業員一人ひとりの環境意識の高揚と自覚を促す教育となっていて、新・転入の従業員すべてを対象に実施しています。

特別教育は、著しい環境側面に関連する作業の従業員に対して行う教育であり、作業の手順を中心とした教育を新たな作業従事者全員に実施しています。

さらに環境のレベルアップのため、内部環境監査員の養成に力を入れていて、外部研修機関によるセミナーの活用および実際の監査同行などにより、現在、内部環境監査員として42人を登録しています。



「アジサイ」はKIMOTO三重工場のあるいなべ市北勢町の町の花です。工場のそこかしこに、雨に打たれながら咲き誇っています。

環境を守るために

溶剤排ガス処理対策

KIMOTOの両工場では自主的な環境調和を目的に、コーティングにより発生する溶剤ガスを燃焼して処理する排ガス処理装置を設置しています。

本装置は蓄熱式脱臭炉といい、排ガスを燃料の一部としてボイラーの蒸気発生に有効活用できることから、重油・灯油などの燃料の節約ができる経済的な装置です。

写真の装置では約40t/月の排ガスを処理しています。



排ガス処理装置

廃棄物の削減・リサイクルの取り組み

廃棄物の削減・リサイクルとしては、廃有機溶剤、廃プラスチック等の削減、リサイクル化を中心に進めています。

廃有機溶剤は、積極的に廃液回収装置の導入を図り、その回収、再利用を推進しています。

また、廃プラスチックでは、その排出削減活動を歩留り向上運動と連動させて各職場で取り組んでいます。

さらに発生した廃プラスチックについては、サーマルリサイクル化を進めるとともに、最近では分別活動を強化して、有価物として販売できるマテリアルリサイクル化を図っています。

この活動により、従来発生していた廃棄物処理費用をかなり削減することができました。

(2005年3月期の廃棄物処理費用約2,300万円、有価物販売額約430万円)



溶剤回収装置

環境配慮製品の開発

環境にやさしい製品開発

KIMOTOでは現在、環境配慮型製品の開発に力を注いでいます。

最近では光触媒フィルム「ラクリーン」や遮熱フィルム「エコシュール」を開発・発売しました。

●光触媒フィルム「ラクリーン」

光触媒フィルム「ラクリーン」は光触媒をアクリルまたはフッ素基材にコーティングしたフィルムで、光触媒の超親水効果を利用したセルフクリーニングフィルムです。

あらかじめ粘着層を設けてあり、看板や窓ガラスに貼り付ければ、太陽光（紫外線）と雨の作用で汚れを落とし、清浄な表面を維持しますので、水や洗剤による洗浄が不要です。



上半分がラクリーン貼付部分

●遮熱フィルム「エコシュール」

遮熱フィルム「エコシュール」は熱線を反射するフィルムで、粘着層がありますので、対象物に貼るだけで内部の温度上昇を抑制します。特に冷蔵庫、冷凍庫などに施工すると内部の温度上昇を抑えますので、品質維持管理に貢献します。

また遮熱塗料と違い、予めフィルム化されていますので、塗料乾燥時のVOC（揮発性有機化合物）発生が極めて少なくなります。



VOCの分解性の試験

●環境配慮製品の開発も推進

この他にも最近問題になっているホルムアルデヒドなどのVOCを緩やかに分解していく性質を備えた可視光応答型の光触媒フィルムの開発や、生分解性のある機能性フィルムの研究など、環境に配慮したさまざまな製品の開発に着手しています。

また、社内から環境に配慮した製品の提案を集める「アイデアコンテスト」を実施し、特に優秀な提案は表彰するとともに製品化を進める機会も設けています。

この提案制度は、新しい環境配慮型の開発テーマの発掘はもちろんのこと、社員一人ひとりの環境に対する意識を高めていくことにも大きく貢献しています。



コンポストを使ったフィルムの分解試験

その他の環境対策

チーム・マイナス6%参加

2005年より、地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」に「株式会社きもと」として参加し、「グリーン購入法の推進」「リサイクルの推進」「エコ運転の奨励」などに取り組んでいます。



本社での「リサイクルの推進」

KIMOTOでは、コピー用紙の裏紙利用を全社的に推進しています。本社では、各フロアに回収箱を設置し、裏紙利用可能なコピー用紙を5カ月間で約1,500枚回収しました。現在は、技術開発センターなどで再利用しています。



「エコドライブ講習会」

現在、地球温暖化や大気汚染など環境問題がクローズアップされています。

そこでCSR委員会の環境・安全部会ではエコ運転に注目し、損保会社が主催する「エコドライブ講習会」へ参加しました。

エコ運転は環境だけではなく、安全、さらには経営にも連携していくため今後は講習会などを開催し、全国へ展開していく予定です。



グリーン調達

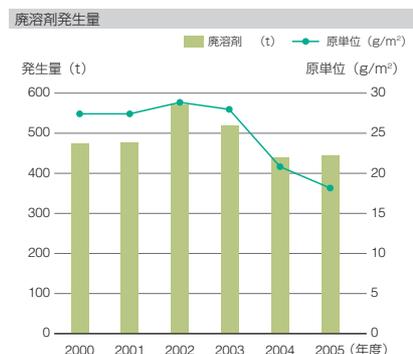
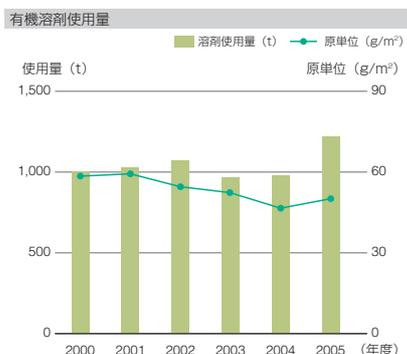
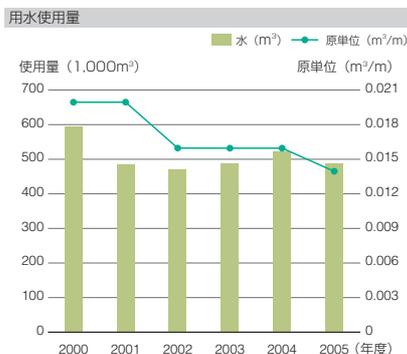
KIMOTOでは、全社的に文房具など事務用品を中心にして環境対応商品を購入するように奨励しています。

茨城工場では2005年度実績で商品数65点、技術開発セ

ンターでは約7割の購入がグリーン購入法適合品となっています。

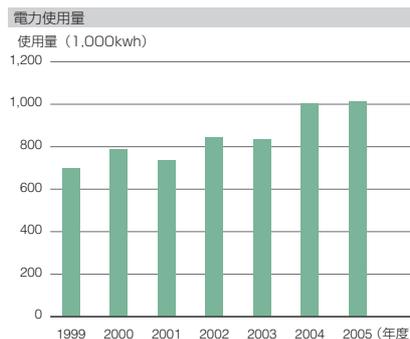
環境データ

工場環境データ



注) 原単位とは、使用量を当社フィルム製品の製造量 (m²数) で割ったものです。

技術開発センター環境データ



注) 1999年、2000年の廃プラスチック類発生量と、1999年のコピー紙使用量および廃油発生量につきましては、統計しておりません。

KIMOTOの歩み

1952	有限会社 きもと商会設立	
1961	株式会社 きもと商会に組織変更	
1962	埼玉県与野市（現、さいたま市）にコーティング工場完成、機能性フィルムの製造および関連事業の開始	
1965	埼玉工場落成	
1966	大阪営業所（現、大阪支店）開設	
1967	株式会社 きもと に商号変更	
1969	茨城工場新設	
1970	札幌駐在所（現、札幌支店）開設	
1971	仙台に（株）東北きもと設立、名古屋営業所（現、名古屋支店）開設	
1972	福岡営業所（現、福岡支店）開設	
1973	埼玉営業所（現、関東支店）開設、広島営業所（現、広島支店）開設、販売会社 KIMOTO USA INC. をアメリカに設立	
1974	販売会社 KIMOTO AG をスイスに設立	
1977	測量業に登録 登録 No. (1) - 9025 号	
1979	筑波営業所開設、三重工場（現、三重第一工場）新設	
1981	埼玉県与野市（現、さいたま市）に中央研究所（現、技術開発センター）開設 創立 30 周年記念行事「アルプホルンとスイス音楽の集い」を開催	
1985	KIMOTO TECH, INC. をアメリカに設立	
1987	第七回科学技術長官賞を受賞 三重第二工場落成、KIMOTO TECH, INC. アトランタ工場完成	
1989	サッカーコミュニケーションを開催（～'97）	
1991	（株）東北きもと、（株）沖縄きもとを（株）きもとに合併、中国遼寧省瀋陽市に瀋陽木本データ有限公司を設立	

1991	故木本氏仁初代社長 黄綬褒章受章	
1992	三重第三工場新設 イングリッシュコミュニケーションを開催（～'97）	
1994	日本証券業協会（ジャスダック）に店頭登録「登録 No. 7908」	
1995	販売会社 KIMOTO USA INC. と製造会社 KIMOTO TECH, INC. が合併（存続会社 KIMOTO TECH, INC.）、KIMOTO TECH, INC. 「ISO9002：1994」認証取得、三重工場、茨城工場「ISO9002：1987」認証取得	
1996	製造会社志村化工工業株式会社（現、株式会社キモテクノ）の株式を 100%取得	
2001	eAI 技術部、情報システム事業部「ISO9001：2000」認証取得、三重工場「ISO14001：1996」認証取得	
2002	茨城工場、物流センター（茨城、三重）、技術開発センター（研究部、eAI 技術部）、（株）キモテクノ「ISO14001：1996」を拡大認証取得、情報システム事業部門（eAI 技術部、本社、情報システム営業部、札幌支店、旭川営業所）にて「ISO9001：2000」を拡大認証取得、KIMOTO TECH, INC. 「ISO9001：2000」へ移行認証取得	
2003	機能性フィルム事業部門（本社、各支店）、茨城工場、三重工場、研究部、物流センター（茨城、三重）にて「ISO9001：2000」を移行・統合・拡大認証取得	
2004	株式会社キモテクノ三重工場を新設	
2005	東京証券取引所市場第二部へ上場、技術開発センター（情報システム事業部門）で「BS7799：PART2：2002」認証取得「ISMS 認証基準（Ver.2.0）」取得、三重第四工場落成	
2006	東京証券取引所市場第一部へ上場	

発刊にあたって

昨今において重要度を増しつつあるCSRの考え方は、先人企業の基本姿勢に重なるものでもあります。当社におきましては創業の時代から「共生共栄」を基本とした経営に微力ながら努めてまいりましたが、企業に求められる社会的責任は年々広くそして深くなっており、新たな視点で見直す必要が生じています。

2005年5月に4名の役員と社内各部署の約30名の社員をメンバーとして新規にCSR委員会を立ち上げ、環境など従来から行っていた活動をさらに発展させることといたしました。

本年度はCSR委員会の活動としては初年度であり、内容的にもグループ全体への展開の点でも十分とはいえませんが、委員会メンバー自らが関わり編集したこのCSRレポートが、ステークホルダーの皆様との共生共栄を一層深めるための一助になればと考えています。

当社では、本レポートの内容、あるいはCSR活動に関する皆様からのご意見、ご質問をお待ちしていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

取締役
経営企画本部長
CSR委員長
山縣 敏雄



お問い合わせ

株式会社 きもと

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-19-1

TEL : 03-3350-4704

FAX : 03-3350-9380

<http://www.kimoto.co.jp/>

KIMOTO

株式会社 きもと

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-19-1

TEL : 03-3350-4704

FAX : 03-3350-9380

<http://www.kimoto.co.jp/>



このCSRレポートは、古紙配合率100%再生紙と
アメリカ大豆協会認定の大豆油インキを使用しています。

2006年6月発行